

「私は義をもって戦った。人のために、大義のために、食べ物のために、自由のために、私は偏見に立ち向かった。違法なこともし、禁じられた道を辿り、逆を行き、その逆を行き、いや、私は疲れ、泣いて笑い、悩み、楽しんだ」(『ナヴェガサオン・ヂ・カボタージェン(沿岸航路)』ジョルジ・アマード、1992 年)

シノプス

バイーアに称えあれ！聖なるバイーア！

1912 年. 銀の月明かりがアシェーの力に満ちた空を洗う

それこそ、バイーアの主、オシャラーの冠！

我らを守りたまえ、ボンフィンの主よ！

海から希望がやってくる…魔法の海岸…イエマンジャー！海の女神へ捧げものを！

「そは人魚、そは水の母、海の主、イエマンジャー！

バイーアの風音に蠟燭が踊る。ヨット、カヌー、いかだは波に運ばれるままに。

「、、、魚を囲め。オールを打て。ロープを引け。網を手繰れ。

カヌーを操る漁師は網を海から引き上げる、、、」

ジョルジ、アマード(愛すべき)ジョルジ…ここに彼の歴史、彼の記憶をたどる。

行け、バイーアの子よ。彼の地の秘密を暴け。

ジョルジは知った、農場を、通りを、裏通りを、路地を、スラムを、人のタイプと所作を。

「花はいらんかー？果物はいらんかー？」売り子が叫ぶ。

「ほら、アカラジェだよー！」老いたバイアーナが薦める。

アグアス・ヂ・オシャラーやラヴァーージェン・ド・ボンフィンの祭りは必見！

文字がひと息で訪れる。人々を守る、自由の風。

ああ、リオデジャネイロ…若き物書きの新しいホームタウン。

大学の卒業と人生勉強。

政治では、「赤い心」に奉じた。

都会の生活。友達、おしゃべり、女たち…

ああ…女たち…香りに満ちて官能的な生活…

バー、キャバレー…そして素行不良、最初の著作『パイス・ド・カルナヴァウ(カーニバルの国)』

初めての小説。戦う心を持ち、香辛料の効いたバイーア、その永遠の情熱の小説。

カカオのサイクル、大いなるインスピレーション。

歴史の砂の内に生き、船長となる夢を見る。

それが理想。男の値打ち。人々の勇ましい魂を認めること。

実在の人物と登場人物が重なる。紙の上に描き出される本当のバイアーナたち。

自由はいずこに？

それが「諸聖人のバイーア」みんなのバイーア！全ブラジル人の。
文字の上で、そして実際に歩く道で出会う、甘い恋、甘い花、友人、仲間、パートナーを
「無限の」世界まで誠実に追い求める。
…その起源に戻ろう。文学の夜明けに向けた歩みに。
表彰され、「愛され (Amado)」る、聖化への歩み。軍服と礼服。
ガブリエラの味付けに人生の味わいを探す。内陸部の年代記の香り。
モレーナの結び髪を揺らす風が、ドナ・フロールに出会う言葉を揺らす。
荒野の「喜びの大地」出身のチエッタ。「蜜の泉」。
ノルデスチの女たちと「奇跡」。
漁師よ、網をうて！記憶の海から、着想を刺激する言葉を引き揚げろ。
今日はジョルジ・アマードが船長。「沿岸航路」の彼の航海を指揮する船長だ。
神秘主義と異種交配。カンドンプレ、大地の魂。
エシューが我らの歩みを許しますように！「平和のためなら、立ち入りを認める」
オケー・アロー（栄えあれ、大いなる狩人）オシヨシー！全てのオリシャーに栄えあれ。貝殻を投げ
ろ、歌え、祈れ！
カオー・カベシレー！カオー（おお、称え奉らん！おお）、我が父なるシャンゴー！ジョルジはイレ
ー・アシェー・オポー・アフオンジャー（女神フォンジャーの祭壇）の王子！
オラ・イエ・イエ（栄えあれ、母なる女神）オシュン！ガントワの母なる少女の母、信仰の護り手、聖
なる力！
ペローの坂でお祭り！バイーアのお祭り！ジョルジの混交の大地を熱くする！
フィーリョス・ヂ・ガンディーの魔力…ノルデスチーノの血のエネルギー…
アタバキとアラベールを叩く。ペロウリーニョが震える！イレ・アイエーが下りてくる！
太鼓！リズムの力！オロドウンの音！
親愛なる友人諸君、こちらへいらっしゃい！この物書きの愛すべき (Amada) 家族よ、我々とともに
来て歌え！
ジョルジ・アマードの生誕 100 周年を…インペラトリス・レオポウチネンセが祝う！
魂と心で、みんなでこの文字の巨匠を顕彰しよう！
大木の木陰に置かれて、彼の言葉は永遠に休むことだろう…
ジョルジ、愛すべき (Amado) ジョルジ…
どうもありがとう！
今日、私はあなたのために歌い、そして宣言する：
私もまたひとり、あなたに魅せられたグレジレンセ (インペラトリスのメンバー) であると。

(サンバ・エンヘッド)

作： ジェフェルソン・リマ、ヒバマール、アレシャンドリ・ヂメンヂス、クリストヴァオン、トウニーニョ・プロフェソール

称えあれ、聖なるバイーア！
オシャラーの祝福を受けた地！
海は、希望に口づけて、
イエマンジャーの腕の中に休む
小さなアマード…
着想の刺繍を受けた運命
気づきを得て…
魅惑的な言葉という服を身に着けた

ほら、アカラジェだよ！いらんかね！
アシェーの力とデンデの風味を帯びて
敬虔なものは徒歩で行く…その通り！
ラヴァーージェン・ド・ボンフィンのために道をあける

風が吹いた
自由な文字に向かって
漁師よ、網を投げろ！
人々は幸せに餓えている
そよ風は揺らす
愛を語る物語を
月明かりの下の思い出
花の甘い香り
エー・バイーア！エー・バイーア！
聖人たちと、魅力と、魔力のバイーア
カオー・カベシレー(おお、称え奉らん)！オラ・イエ・イエ(栄えあれ、母なる女神)オシュン！
ペローではお祭り
坂道ではカポエイラが一人一殺

私はインペラトリス！私は感情！
私の心が祝祭を求める！
小説の巨匠に、愛の歌を
ジョルジ・アマード、サラヴァ！